

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 21 年 2 月 5 日 (2009.2.5)

【公表番号】特表 2008-525369 (P2008-525369A)  
 【公表日】平成 20 年 7 月 17 日 (2008.7.17)  
 【年通号数】公開・登録公報 2008-028  
 【出願番号】特願 2007-547502 (P2007-547502)  
 【国際特許分類】

A 6 1 K 8/81 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/81

A 6 1 Q 19/00

【手続補正書】  
 【提出日】平成 20 年 12 月 10 日 (2008.12.10)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】請求項 3  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【請求項 3】

式 (1) で表わされるカチオン性アクリルモノマーが、アクリロイルオキシエチル - トリメチルアンモニウムクロリドおよびメタクリロイルオキシエチル - トリメチルアンモニウムクロリドから選択される、請求項 1 に記載の逆エマルジョン。

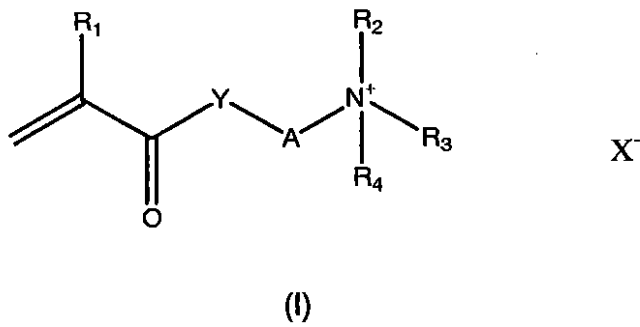
【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】請求項 4  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【請求項 4】

逆エマルジョン重合により得られるアクリルポリマーが、2 または 3 以上のエチレン基を含む 0.01 ~ 1 重量% の化合物と架橋している、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の逆エマルジョン。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】請求項 6  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【請求項 6】

逆エマルジョンの製造方法であって、  
 a . 40 ~ 60 重量% の水および、残りの重量パーセンテージのアクリルモノマーの混合物からなる組成物を調製すること、ここで該アクリルモノマーの混合物は、  
 i . 90 ~ 99.9 重量% の、強酸性官能基を含むアニオン性アクリルモノマー；  
 ii . 0.1 ~ 10 重量% の、式 (I) ；

## 【化 2】



式中、

$R_1$  は、水素またはメチルであり、

$R_2$ 、 $R_3$ 、 $R_4$  は、互いに独立して、水素または  $C_1 \sim C_4$  アルキルであり、

$Y$  は、NH または O であり、

$A$  は、 $C_1 \sim C_6$  アルキレンであり、

$X$  は、塩素である、

で表わされる、カチオン性アクリルモノマー；

からなり；

b. a. で調製した組成物に、pH を 4 ~ 7 の間に調節するためのアルカリの水溶液、架橋剤、およびラジカル重合開始剤を加えること、および温度を 3 ~ 7 の間に維持すること；

c. 1 種または 2 種以上の油中水型乳化剤を含む有機相を調製すること；

d. b. で得られた混合物を、c. で調製した有機相に導入し、2 つの相を強く攪拌することにより乳化すること；

e. 重合を開始させ、強く攪拌しつつ温度を 55 ~ 95 の間に維持しながら、重合を終了させること；

f. 反応混合物を 35 ~ 45 の間に冷却し、水中油型乳化剤を加えること；  
を特徴とする、前記方法。